

令和2年

3/1 SUN

おのぶっ祭開催

国重要無形民俗文化財指定

# 東郷文弥節 人形浄瑠璃

源氏烏帽子折三段目『鞍馬下りの段』

主催：東郷文弥節人形浄瑠璃保存会

後援：東郷文弥節人形浄瑠璃後援会

薩摩川内市、薩摩川内市教育委員会

薩摩川内市商工会、薩摩川内市観光物産協会

薩摩川内市文化協会、南日本新聞社

南日本放送、川内・東郷販売所

会場：東郷公民館ホール

[受付] 10時10分 [開演] 10時40分 [終演] 11時20分

入場料一般：500円 後援会会員：無料

連絡先：東郷文弥節人形浄瑠璃後援会(東郷公民館内) ☎0996-42-0864

# 東郷文弥節 人形浄瑠璃

## 解説 源氏烏帽子折三段目『鞍馬下りの段』

時は正月吉日、京の都・三条烏丸の烏帽子屋、五郎太夫の一人娘・東雲（しののめ）は、腰元達を相手に羽根つきを楽しんでいます。十五歳の春を迎えた東雲は、京人形のように美しい娘盛りです。

平治の乱に敗れ、命乞いをして鞍馬山の寺に預けられた牛若丸は今年十六歳、元服して一人前の武将となる為に、烏帽子を買いに五郎太夫の店に立ち寄ります。牛若丸の気高さとその美貌に強く心を打たれた東雲は、すっかり魅せられてしまいます。そこへ五郎太夫が帰って来て、源氏方の若君であるときとり、娘に奥座敷へ案内して大事にもてなすように言いつけ、密告したら沢山の褒美がもらえると、密かに六波羅の役人、長田の庄司のところに知らせに行きます。奥座敷では牛若丸に一目ぼれした東雲が、「元服の祝言を上げてくれるようと、沢山の烏帽子かけに、烏帽子や装束をつけ、生きた武将のような人形を作り、前途を祝っています。それを障子の穴から覗き見た五郎太夫と長田の庄司は、沢山の人形が生きた武将に見え、二人は恐れおののき、めし捕るところではありません。そこへ源氏方の武将金丸がとんできて、二人を成敗し、牛若丸の元服を祝い、自らも一差し舞うという物語です。

